

Step UP!

2014年 11月12日

発行責任者 佐久間 晃史

NO. 14 編集責任者 情 宣 部

2014年年末手当 第4回交渉報告

2014年11月10日、中央本部は第4回交渉を行い、会社の考え方が示されました。

会社の考え

- ①収入動向で、10月は台風の影響もあり、対計画83.1%の19億9000万円の減収
- ②11月9日現在、対前年103%であるが、計画に対しては1億1000万円の減収。
- ③中間決算は増収増益だが、鉄道事業部門は営業費用の増大などで計画より2億9800万円悪化している。体質改善が必要である。
- ④収入動向を勘案すれば、今年度の夏季手当よりも厳しい。

対して組合は

- ①営業施策等それぞれの目標があるが、トップセールスの目標を設定しないことは会社の体質である。職場は大変な状況の中業務をしている。その部分を評価すべきだ。会社の体質が改善の取り組みが見えない。
- ②労使でこの難局を乗り切るならば、年末手当に反映させるべきである。夏季手当よりも厳しい根拠は何か？
- ③計画は立てたなりの施策が必要であるが、それが見えない。経営体質の改善なしに鉄道事業部門は黒字にならない。収入も対前年で100%を超えたのは組合員の努力である。それで夏季手当も厳しいと言うのはおかしい!!上期の結果に会社は応えていない!!

指摘に対して会社は

- ①体質改善とは仕事の仕組みを変える意味であるが、時間がかかっている事は否定しない。
- ②夏季手当も厳しいのは、平成28年度鉄道事業の黒字化に向かっていくため、災害の影響や、下期は動力費の値上げ等コストがかかるためである。
- ③経営の側から見ると、災害減収もあるので、社員と一緒に頑張ろうとしか言えない。交渉の経緯を経営陣に報告し、回答指定日に示す。

苦勞に報いようとしない姿勢を絶対許さない 怒